

新品種候補 (作成 平成20年1月)

てんさい新品種候補 「H 135」の概要	道立北見農試、十勝農試、中央農試、上川農試、北農研センター 北海道てん菜協会(北海道糖業株、日本甜菜製糖株、ホクレン)
----------------------	--

1. 特性一覧表

系統名	H 135	来歴	「H 135」は、ベルギーのセスバンデルハーベ社(旧アドバンタ社)が育成した三倍体単胚の一代雑種である。平成15年にホクレン農業協同組合連合会が輸入し、同年「HK03-1」の名で輸入品種検定予備試験に供試。平成16年より各種試験を行った。	
-----	-------	----	---	--

特性	長所	1) 「アセンド」より糖量がやや多い。 2) 「アセンド」より不純物価がやや低く、品質が優る。		短所	1) 褐斑病抵抗性が“弱”である。
	性所			性所	

普及見込面積	平成20年度 30ha	平成22年度以降 15,000ha
--------	-------------	-------------------

系統・品種名	H 135	モノホマレ (標準品種)	アセンド (対照品種)
形質			
倍数性	三倍体	二倍体	三倍体
葉姿	やや開平	直立	やや開平
葉長	中	長	やや短
葉数	やや多	やや多	やや多
葉形	楕円	皮針	楕円
クワの大小	やや小	小	小
根形	円錐	円錐	円錐
分岐根	少	少	少
露肩	中	中	やや少
根重(t/10a)	8.03(108)	7.43(100)	7.94(107)
根中糖分(%)	16.87(103)	16.34(100)	16.72(102)
糖量(kg/10a)	1,351(112)	1,211(100)	1,324(109)
修正糖量(kg/10a)	1,196(115)	1,042(100)	1,166(112)
アミノ態窒素(meq/100g)	2.00( 90)	2.22(100)	2.25(101)
カリウム(meq/100g)	3.93( 86)	4.55(100)	4.04( 89)
ナトリウム(meq/100g)	0.40( 58)	0.69(100)	0.47( 68)
不純物価(%)	4.20( 83)	5.07(100)	4.61( 91)
特性検定試験			
褐斑病抵抗性	弱	やや弱(やや強)	弱
根腐病抵抗性	やや弱	やや弱(弱)	やや弱
抽苔耐性	強	強	強
耐湿性	(やや弱)	やや弱	やや弱
そう根病抵抗性		やや弱	
黒根病抵抗性	中	中	中

- 注1) 特性検定は担当農試の成績で、褐斑病抵抗性、根腐病抵抗性における「モノホマレ」の( )内は品種登録時の評価。  
 2) 形態的特性は十勝・北見農試の成績。その他は北見、十勝、中央、上川、北農研、てんさい協会(3カ所)の計8カ所平均で、試験年次は4カ年(平成16~19年)。但し、中央・上川農試は平成16~17年の2カ年供試。また、平成17年日甜は除く。( )内は「モノホマレ」に対する百分比。  
 3) 「H 135」はそう根病抵抗性を持たないので、特性検定試験に供試していない。  
 4) 「H 135」の耐湿性は平成18年の単年度評価。

## 2. 「H 135」の特記すべき特徴

「アセンド」と比較して糖量がやや多い。また、不純物価がやや低く、品質が優る。

## 3. 優良品種に採用しようとする理由

「アセンド」は糖量の優れた品種として平成16年に優良品種に認定され、平成19年には19,921ha（作付け面積29.9%）と広く作付けされている。しかし、最低生産者価格が撤廃されるなど、てんさいを取り巻く情勢は厳しく、生産者の手取りを確保するために、より糖量の多い品種が必要とされている。

一方、製糖事業者においては、「砂糖及び甘味資源作物政策の基本方向」で、最大限の合理化を実施することが政策支援を受けるための前提とされている。一般的に、高品質な原料は製糖資材の削減に寄与するため、製造コストを継続的に削減するために、高品質な品種の導入、開発が必要とされている。

「H 135」は、「アセンド」と比較して糖量がやや多い。また、不純物価がやや低く、品質面で優るため、製造コストの削減が期待される。

以上のことから、「H 135」を「アセンド」に置き換えて北海道一円に普及することにより、てんさいの安定生産に寄与できる。

## 4. 栽培適地

北海道一円

図1. 「H 135」の糖量

（対「アセンド」百分比表示）

：輸入品種検定試験、品種連絡試験

4カ年平均成績(平成16～19年)



## 5. 栽培上の注意

- 1) 褐斑病抵抗性が“弱”なので、適切な防除に努める。
- 2) そう根病抵抗性を持たないので、発病圃場では栽培しない。